



楷

No. 6 March 1988

読書のすすめ

高橋克明

新入生の皆さん御入学おめでとう。

長年の苦勞が報われ、晴れてこのキャンパスの一員として、新しい学生生活の一步を踏み出された皆さんに、心から歓迎の意を表したいと思います。

皆さんは今、これから始まる大学生としての生活に大きな期待と希望を持っていることでしょう。どうかその初心をいつまでも失うことなく、勉学に励んでいただきたいと思っております。これまで、入学試験という難関が皆さんの物心両面の生活において、常に大なり小なり圧迫感や焦燥感を与えていたことと思います。その関門を越えた今、恐らく皆さんは晴れ晴れとした解放感を味わっていることでしょう。しかし大学の授業はすぐ始まります。そして待つてはくれません。今すぐ気持ちを引き締めて、一日も早くそれぞれが勉学への意思と態勢とを整えなければなりません。大学は申すまでもなく学問の府であり、最高の教育機関です。大学における勉学は、教室や実験室やゼミ室において先生から与えられる授業のみではなく、授業に沿ってあるいは授業を手掛かりにして、自ら書物を読み、考え、実践する学習が不可欠であります。授業科目にしても、諸君の選択し得る範囲も広がっております。先生からの教えと、この自らの勉学とを通じて、皆さん自身の将来の人生の基盤となる、豊かな知性と人間性に裏打ちされた、高い教養と深い専門的能力の形成に努力されることが必要です。

皆さんが接する先生方は、すべてかつては皆さん同様に、大学生として青春時代を過ごした学生生活の先輩の方々です。私もその一人として後輩の皆さん方が、真に有意義な学生生活を送るための、

目

次

- ・読書のすすめ..... 1
- ・大学図書館の電算化について..... 3
- ・利用者の声..... 4
- ・私の本棚から..... 6
- ・池田家文庫シリーズ②
脚光を浴びる『産物帳』..... 7

- ・イギリスの大学図書館の特色..... 9
- ・古文書データベース“諸職交替”の紹介..... 11
- ・係の紹介 目録係..... 13
- ・電光掲示板..... 14
- ・日誌、その他..... 14

最も基本的な指針をアドバイスしたいと思います。それは「本を読む」ということです。

人間性を磨き、高い教養と深い専門的能力を形成する道は、先人の知恵や思考を学びとり、自分自身が思考し実践し体験することを措いてはない、と私は思います。知恵なくして実践することは、単なる独りよがりな墮すことが多く、人を損なうことも多いし、実践を伴わない知識の集積よりも、ある意味では一層好ましくないと思います。

人類はこれまで、数次にわたる情報革命を成し遂げて来ました。最初は言語を生み出したこと。つぎは文字を発明したこと。ついで印刷技術を獲得したこと。そして電気エネルギーを用いた電信・電話・テレビ等の通信技術を確立したこと。今日ではコンピューターと通信技術を結んで、情報の記憶を取り出し、選択・加工・応用等も可能とする技術が進行しつつあります。現在、500頁の書物100冊分が、1枚のレーザーディスクに入るとされています。しかしながら、印刷したものであってもディスクに入ったものであっても、書物は書物です。書物を読み、思考することが、学習の基本であることは、今後も変わりはありません。

授業においては、毎日の授業時間数と同等あるいはそれ以上の、予習と復習が必要とされています。そしてそれぞれの課目に対応して、教科書や多くの参考書があります。これらを読み、内容を理解し、考えることが必要です。授業関係以外にも、余暇を利用して出来るだけ多くの書物を読んでください。ただ書物と言っても選択が大切です。私達の学生時代と違って、今ではいくらかでも読みたい書物を手にすることが出来る幸せを、皆さんは持っております。学生諸君の中には、読むものと言えば、漫画や週刊誌に明け暮れる人もあります。私は決してこれらのものを否定はしませんが、刹那的な泡沫のようなものではなく、著者がその思想や思考を傾けた、著者の人間観や社会観等も読み取れるような多くの書物を薦めたいと思います。場合によると、生命をかけ長い時をかけたものも見出せるでしょう。著者の考え方、あるいは示そうとする情景や人間像を、思った通り表すために、選び抜き、磨き上げ、熟成させた、まさに珠玉のような言葉や表現に出会って、感動することも多いと思います。優れた言葉や表現というものは、それによって読者の一人一人が、その感性のままに、想像や思考を自由奔放に展開させてゆくことが出来るところに、大きな魅力と夢があると思います。

私達の学生時代は1940年代の初めてでした。戦争の真只中から戦後にかけての時代です。その頃の私達は、飢えたように18世紀末から20世紀初頭までの欧米の哲学書や文学書を読み漁りました。カントやヘーゲルやニーチェの書物は、当時の我々には全く難解で、満足に読み終えたものはありませんが、それでも友人と口角沫を飛ばして、内容について論議したものです。勿論今から思えば幼稚な議論でした。文学書では、ゲーテやバルザック、ディケンズ、ヘッセ、ジイド、トルストイなどはじめ枚挙に暇がない程たくさん読んだものです。

その後の人生では、仕事に必要なもの以外は次第に読めなくなりましたが、今振り返ってみても、若い時に読んだ本から得たものや、読みながら自分自身で迷い、思い、想像を巡らしたことなどが骨の髄に浸みついて、自分という人間の底で人生を支えてきたように思っております。世代も変わった今、諸君達の選択は、また違ったものになるとは思いますが、それが学生生活を悔いのないものにする事だけは、自信を持って皆さんに言えると思います。

幸いにして岡山大学の図書館は、蔵書数は130万冊に及び、また多くの内外の定期刊行物も整っております。皆さんのいかような選択にも、応ずることが出来ると思いますし、また選択に当たって、教職員の方々からも適切なアドバイスが得られます。この膨大な情報の集積を利用することも、本学学生である諸君の幸せな特権であると思います。諸君が図書館を充分活用され、有意義な実り多い学生生活を送られることを、心から念願しております。

(たかはし かつあき 岡山大学長)

大学図書館の電算化について

矢野 光雄

図書館の仕事の特色は、書誌情報を介して仕事が行われるところにある。図書・雑誌の発注・受入、分類及び目録作業、参考調査業務皆しかりである。その結果、図書館では、書誌情報を記録した目録が不可欠となる。多くの場合、図書館の目録はカード目録として編成されるが、その維持管理が容易ではない。編成に手間がかかる。だからといっておろそかにすると利用者も係員も共に図書資料へのアクセス手段を失うことになる。

1. 大学図書館に電算機が導入されてから20年にもなろうか。昭和50年代前半までは、主としてハウスキーピングが電算化の対象とされてきたが、やがてMARC（機械可読目録）や新しいハード、ソフトが開発され、目録業務はいま大きく変わろうとしている。昭和55年1月の学術審議会答申、同61年に設置された学術情報センターによる学術情報システムの計画、その中で大学図書館の役割は①情報検索の窓口、②一次情報の収集・提供、③目録・所在情報の形成の3点であること、学術情報センターは大学図書館等に対し、情報検索サービス（NACSIS-IR）や、オンライン目録システムを提供することとしている。

2. 「大学図書館は、大学の研究・教育に不可欠な図書館資料を効率的に収集・組織・保管し、利用者の研究・教育・学習のための利用要求に対し、これを効果的に提供する。」（大学図書館基準）ことを主要な機能としているわけであるが、増大する学術情報と多種多様な利用要求に、一大学一図書館の単位では、もはや応じ切れないのが現状である。大学図書館間あるい

は関係諸機関との相互の協力がなければ、利用者の要求は満たされることはないし、現に文献複写や図書館の閲覧利用面においては制度として行われていることはご承知のとおりである。

3. このような状況の中で電算化は、何をどのようにすべきであるか検討する必要がある。まず、

第一は、その目的である。①利用者への情報提供サービスを行うため、②日常業務の効率化を図り、仕事を円滑に進めるため、の2点である。

第二は、対象業務である。目的の①を果たすためには目録業務と情報検索が、②を果たすには閲覧業務や図書・雑誌の受入、納品チェック、支払業務が対象となる。前者が情報提供サービスの業務であるのに対し、後者は図書館資料の管理的業務であると言える。

第三は、システムの開発である。大学図書館電算化20年の歴史の中で開発され、改良を重ねられたシステムが、パッケージ化されている。これの適用を検討したい。パッケージの適用は開発の期間の短縮に有効である。しかし現場の仕事の変更を伴う場合もあり、いずれが効率的であるかを勘案しつつ進める必要がある。

4. 情報化社会と言われ始めてから既に久しい。至難のわざかとも思われるが、大学図書館が、情報を必要としている利用者、「必要な情報を、必要な形で、必要な時に、必要な場所へ」提供し得ることができたなら…、との願いを込めつつ職員一同努力をしている。大方のご理解とご協力を切に願う次第である。

（やの てるお 附属図書館事務部長）

利 用 者 の 声

附属図書館では、JOIS（科学技術分野）とDIALOG（全分野）によるオンライン情報検索サービスを行っています。昭和63年4月からは、化学物質のグラフィック検索ができるCASオンラインの導入も予定しています。今回は、この情報検索サービスをご利用いただいている方々に、ご感想やご意見を書いていただきました。なお、サービスの窓口は、参考調査係です。

気軽にに行ける情報検索コーナー

宇根山 健治

図書館の機能がどの程度利用されているかは大学のレベルを計る一つの尺度であろう。蔵書〇〇万冊、図書館の面積△△坪等々よりも、学生・教職員が常に館内にあふれ、夜も明々と灯がともって、静寂の中にも熱気をはらんでいる図書館の姿が理想である。

岡山大学図書館の利用率はどの様なものであろうか？全学生の何割が少なくとも週一回、図書館に足を運ぶのか、一般図書、参考図書がどの程度、閲覧あるいは貸出されているのか、等々、私にはあまりわからない。

2年前に、工学部工業化学科2年生の講義の中で、あるテーマで調べさせることにしたが、その時、図書館の利用について、聞いてみて驚いた。何と、図書借り出しの個人カードを持っていない学生がほとんどだったのである。さっそく、参考調査係の方をお願いして、蔵書の内容、本の探し方、利用のすすめなどを話していただいた。その甲斐があつてか、また度々レポートを課すためか、図書館を利用する者が多少増えたようであるのはうれしい。望む情報が適確に迅速に得られる図書館は勿論のこと、気軽に行ける図書館、本を読んでみようと思わせる雰囲気を持った図書館であつてほしい。文字離れをしている学生を引き付けるための工夫と環境作りは、教育の一環として私共の仕事の一つであると思う。図書館には各々専門の知識を持った方が居るので、気軽に相談に行くと良い。幸い、本学図書館の職員の方々がこれらの点で大いに協力的であるのはありがたい。

さて、先般、館長の佐藤二郎先生から、文献検索の利用者として、何か書くようにとお電話を頂戴した。私共、工学部に籍を置く者にとって、文献になった情報だけでは研究テーマにするには遅すぎるわけだが、テーマに関する現在までの状況と、周辺の情報を得るのに度々利用させていただいている。私が利用するのは米国化学会のCHEMICAL ABSTRACTS (CA)である。数年前までは、学生諸君自ら毎年の索引から必要な情報を探させていた。勿論、このスタイルも現在学生教育の意味も込めて続けているが、何か思い付いた時に、直ちに情報がほしい時に、参考調査係をお願いすることになる。係の方と私が一対一でパソコンに向かって対話形式で検索を進めていただけるのはありがたい。「先生、この化合物の名前は、これでいいんですね？」「はい。」「CAの化合物番号を調べましたか。」「いいえ。」「では、まず1980年代を調べてみましょう。」「これは文献の数が多すぎますね。少し絞るために〇〇と△△を入れて見ましょう。」「この情報を打ち出しましょうか？この程度ならたいした使用料にならないでしょう。」「等々、私共の懐具合も見越して尋ねてくれる。「情報は研究の水先案内」、これからも大いに利用させていただくつもりである。CAは1967年までは詳細に情報がとれるし、本年4月以降CASオンラインで1967年以前の情報も入手できるとのことである。

(うねやま けんじ 工学部 教授)

図書館のイメージが、いわゆる本を借りる所から、情報基地へと変わりつつあることは、学術情報処理電算化推進委員会が発足した時からあった。文学部では、計算機センターの運営委員がその職責を兼務することになり、私が第1回の会合に出たからである。しかし、それが自分の仕事と、どうつながっているのかという確かなイメージはなかった。

「DIALOG オンライン情報検索サービスの開始について」という図書館長名の通知を頂いたのは、昭和59年の9月であった。丁寧に目を通し、関係のありそうなデータベースに赤線を引いて近いうちに使ってみるつもりでその通知をファイルしたが、それをこの原稿を頼まれるまで見ることはなかった。気持ちはあるながらも、データベースをマニュアルと首っぴきで呼び出すのが、煩わしかったのである。図書館で、誰かが端末機のところにいると、大変好奇心をそそられはしたが、そのまま横目でらんで通り過ぎていた。しかし、ある時、接続は参考調査係がやってくれるということを知り、俄然好奇心を実行に移す気になった。

その当時、私は、「法文構内に乗り入れるバイクを西門脇のバイク駐車でとめて、講義棟まで歩くように学生に説得することで、静かな学内環境作りをしよう」という法文経3学部の交通安全対策委員会の施策に協力して、大学側の説得で学生がどう変わっていくかを調査していた。社会心理学では、これは「説得と態度・行動変容」といわれている領域ではあるが、自分の研究分野でないため文献の所在について見当がつかなかった。この問題にDIALOGを使うことにした。

参考調査係の方からDIALOGによる情報検

索についての非常に要領のよい説明を受けた後に、欲しい文献を引き出すためのKEY WORDSを組み立てた。

まず、(1) CAR か MOTORCYCLE の PARKING を扱っている論文を抽出し、さらに(2) ATTITUDE CHANGE や ATTITUDE FORMATION に焦点をあてたものを選び出せばよいと考えた。DIALOG 所収の PSYCHOLOGICAL ABSTRACTS (1967-86) の中には、PARKING を扱ったものは37件、バイクを扱ったものは43件、車関係は42,089件あった。(1)と(2)の条件を満たす論文は、たった6件のみで、とりあえず論文タイトルと所収雑誌を打ち出してみたが、正直いって、がっかりした。どうしてこんなタイトルが抽出されたのかと思うものが多かったこと、所収誌が DISSERTATION ABSTRACTS ではすぐには入手できないからである。「当たり前」という感じの論文がうまくでなかったので、PARKING を扱った37件を全部印刷させた。今度は、11件ほど自分の研究に関係ありそうなタイトルを入手することができた。

次に「国際感覚」に関する文献リサーチをやってみた。何とか使えそうだという感触を得て、1987年度からは、大学院の授業にオンライン情報検索を組み込み、修士論文関係の文献検索を実習させている。学生には私の名義でDIALOGを使ってよいと言ってあるので、実質以上に私が使っている印象を与え、この一文の依頼がきたようである。

データベースを活用した情報検索は確かに便利ではあるが、正直なところ、それが自分の研究を豊かにするかどうかは、別問題のような気がしている。

(みのうら やすこ 文学部心理学 助教授)

「楷の木」のルーツ談義

畔柳 鎮

「楷の木」は、岡大図書館の玄関東側に植えられている木の名であり、この館報の名称にもされている、別名孔子木、または学問の木とも呼ばれ、岡山県では閑谷校の孔子廟前の2本が有名である。

中央図書館が完工した際、私達が種子から育てた苗木2本が植えられ、その中の1本が現存しているものである。西側の1本は枯れて無い。

この原稿を依頼された手紙の中から、2種の印刷物のコピーと1枚の写真が中央図書館の元には、岡山県熊本大学医学部教授藤本十四秋先生が「楷樹」について紹介されている随筆と同窓会報で、熊本大学の山崎記念館（旧図書館）前にも大木があり、全国の「楷」を調査され、熊本のものが最も大木と書かれており、「樹令60年にもなるこの大木は、幹のまわり凡そ2メートル、高さ20メートルを超えている。」「支那曲阜の孔子墓前、伝子貢の手植のものより得られたる種子を以て、我が農林省林業試験場において播育せられしものの一つ…」と刻まれた花崗岩づくりの石柱が建てられているという。同封の写真は、まさにその現況で、大きな枝を縦横に展開し、見事な樹型に育ち、医学部卒業生の送別の会を「楷樹会」とされているとのこと。また、別のコピーには、湯島の聖廟、閑谷校、佐賀県の多久聖廟のものへの探訪記を書いておられる。

同封のメモや註書のいくつかから、岡大出身の藤本先生が、岡山県の閑谷校で見られたと同じ



▲ 熊本大学山崎記念館（旧図書館）前の楷の木

「楷の木」が、熊本大学へ赴任されて、その構内にあり、卒業生の送別会名にもなっているのに興味を持たれ、いろいろ調査された事柄を記事にされているようで、今回の写真と印刷物のコピーも、岡大の医学部解剖学の村上宅郎教授から、館報「楷」のNo.3を贈られて、参考のために岡大の図書館にお送りくださったものとわかった。

したがって、今回依頼を受けたこの原稿も、本私書房として藤本先生へ岡大内や岡山県下の「楷の木」について、私の知る事実を書き送れば良いと思ったが、この機会にこれらの「楷の木」のルーツと樹令などについて述べたいと思う。

岡山大学の図書館前の「楷の木」については、この館報のNo.1に館報名「楷の木」の由来について、「楷の木はうるし科で、学名を『トネリバハゼノキ』といい、枝が横に水平に張るために、楷書の楷と名付けられたという。一中略一玄関東側に葉を繁らせている木は、農学部の畔柳教授から贈られたもので植樹以後三十数年、図書館と共に育ち、毎年晩秋には美しい紅葉を楽しませてくれる。」とあり、また岡大内での「楷の木」育苗の経過については、「岡大広報」No.57（昭和60年）に、「岡大の樹木追想」として、詳しく述べているので、ここには再録しないが、『岡山大学20年史』によると、中央図書館の完工は、昭和40年3月とあるので（同書540頁）、この年に私共の苗圃からの2本が植えられ、翌年の春、その中の西側の1本が枯れて、代用にムクロジが植えられたこととなる。苗令は3年生であったと記憶しているので昭和38年4月に発芽した苗である。そこで、昭和62年現在では、この玄関東側の「楷の木」の樹令は計算すると正確には25年生である。館報No.1の「植樹以後三十数年」とあるのは、図書館の設置の年から数えての話であって、実は昭和40年のあの時計台を持った中央図書館の完工を記念して植えられたものであることをここに明確にしておきたい。ちなみに昭和62年8月現在の大きさは、目通り周囲（単位は全てセンチメートル）で100、また根元周囲128.5、健康で枝



脚光を浴びる『産物帳』



谷口澄夫

池田家文庫に収められている『備前国備中
之内領内産物帳』(以下、岡山藩『産物帳』
とよぶ)は、長い間ほとんど埋もれた状態にあっ
た。ところが昨年末に刊行された『享保／元文
諸国産物帳集成』(全16巻、科学書院)の第Ⅶ
巻に、岡山藩『産物帳』が、隠岐・出雲・播磨
の『産物帳』とともにほぼその全容が収録され
ており、さらに、岡山県郷土文化財団(理事長
長野士郎知事)が近くその完全な全貌を復刻さ
れることになったため、岡山藩『産物帳』は一
躍脚光を浴びるようになった。

世に『産物帳』といわれるものは、江戸中期
第八代將軍吉宗時代に、幕府の威令によって幕
府医官で本草学者丹羽正伯(貞機 1691~1756)
が中心となって、享保末から元文初めにかけて、
日本全域の諸領に命じて動植物・鉱物・農作物
などの種類や分布状況を詳しく調査して書き上
げさせたものである。吉宗による享保改革が行
われた頃は、わが国土資源の総点検運動ともい
うべきものがおこり、農学・本草学などに人材
が輩出して正に自然科学の夜明けでもあり、吉
宗もそうした学問・知識を政治に生かすことに
積極的であった。『産物帳』の全国的な調製は
如上の時代的動向の所産ともいうべきものであ
り、わが国で最初になされた本格的かつ最大規
模の博物学史上の画期的な大事業であった。

丹羽正伯は伊勢国松坂に生まれ、本草学者
稲生若水(稲宣義)の門下となり、やがて幕命で
採葉使として活躍し、薬草栽培・薬園経営など

を担当した。一方、稲生若水は加賀藩主前田綱
紀に約した『庶物類纂』の編集の完成を見ずに
病没したが、吉宗は正伯にその未完全(後編)
の編集を命じたといわれる。正伯は上記の編集
遂行上の必要から、全国諸領にいわゆる『産物
帳』の編集提出を指示したものであるといわれ
る。

以下、岡山藩『産物帳』の編集経緯や内容構
成などについて、池田家文庫の「留帳」や関
係者の「奉公書」などによって略記しよう。

享保19年3月21日に幕府老中松平将監乗邑
(のりさと 佐倉藩主 6万石)は、大目付あ
ての公達で正伯が『庶物類纂』後編の編集につ
いて、諸国の「産物俗名并其形」を尋ねたら
申達するようにと令したが、その公達に基づ
いて丹羽正伯が翌20年閏3月14日に、岡山藩江
戸留守居大久保岡右衛門など諸藩の江戸留守居
を召喚して、各領内の全産物を委細に書き出す
こと、將軍への献上物は別紙に記載することな
ど、『産物帳』編集の体裁を詳しく指示した。

岡山藩では享保20年8月28日『産物帳』編集
係に、学校御用の和田弥兵衛・河合兵太夫や
沢原孫太郎の3名を任命し、郡奉行から書き出
された材料を藩校内で総括させた。編集作業は
順調に進捗し、同年12月15日に正伯の許に滞り
なく提出された。ところがその直後、名称のみ
では分からないものがあるので、正伯は朱で○
印や△印を付して、必要とする絵図と注書(説
明書)を調整して再提出させることになった。

そこで絵師3名と注書御用1名を任命して、正伯の要求に応えることとした。

かくして、元文元年11月19日に『産物帳』の「本帳」「絵図帳」「注書」を揃えて提出し、関係者はそれぞれ褒美の金品を下賜された。因に、「本帳」は4冊で総頁数334頁、記載産物の総件数は、1,895件にのぼっている。「絵図帳」は6冊で総頁数456頁、記載絵図の実数は228である。なお、詳細は郷土文化財団から出版される『産物帳』の解題にゆずることとする。

上記のようにして、全国各領から丹羽正伯の許に提出された『産物帳』について不可思議と思われることは、正伯はもとより他の本草学者達が、それに言及したり、それを参考に供したことはほとんど皆無であり、また、その大部分

は行方不明の状態にあるといわれることである。『江戸諸国産物帳』（晶文社）の著者でこの方面の権威である安田健氏によれば、『産物帳』は『庶物類纂』後編の編集の資料にするという建前で作成されたので、正伯の私的資料となり、正式に幕府の書庫に収められないままに、その後、散逸を招くことになったものかと思われる。しかし、安田氏らの精力的な調査によって、現在までにその所在が判明したものは208点（全体の3～4割程度か）にのぼり、国立国会図書館・国立公文書館・徳川林政史研究所・東洋文庫、および本学附属図書館など国公立図書館に保管されているといわれる。

(たにぐち すみお 岡山大学名誉教授)

産物帳に描かれた動植物

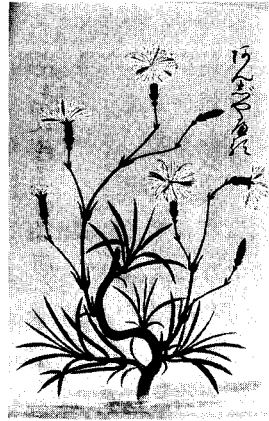
山なすび (ナツハセツツジ科)



つぐり (フスリワシタカ科)



あんじゃべる (カーネーションナデシコ科)



わたりがに (ガサミワタリガニ科)



藍もどき (イヌタデタデ科)



たもり (セトダイイサキ科)



イギリスの大学図書館の特色

葛西大和

学寮を単位とした独特のチューター制度、少数の課目を履修させて専門的勉強をさせるカリキュラム、学外試験官が加わる厳密な評価方式の採用などによって知られるイギリスの大学教育の特質については、これまでもわが国に紹介されているが、大学の研究と教育を支えている図書館の特色については意外に知られていない。

イギリスの多くの大学はカレッジを単位として成立した歴史を持っているので、図書館はカレッジごとに設けられており、カレッジの歴史や専門的スタッフの分野別構成が異なることが、個々のカレッジの図書館の個性を形作っている。イギリスの大学は、また、カレッジの枠をこえて、大学としての図書館を別に共有財産として所有している。オックスフォード大学のボードリアン図書館、ケンブリッジ大学図書館、ロンドン大学図書館が、これに相当する図書館である。

ロンドン大学の起源はオックスブリッジへの入学が非国教徒に許可されていなかったことに憤慨して大学設立運動を展開した1827年に遡り、大学図書館の基礎ができたのは、記録によれば1838年のことである。ロンドン大学とはロンドン市中に散在している高等教育機関の総称であるが、その機構の中には多くの単科大学を含んでいる。大英博物館の北ブロックのブルームズベリーの地に1937-1938年に移転したロンドン大学図書館は大学本部の置かれているセネタ・ハウスと称されている建物の中にある。以下においては、この図書館とロンドン大学の傘下にあるいくつかの機関の図書館の例を参考

にしなが、イギリスの大学図書館の特色について紹介したい。

(1) サブジェクト・ライブラリー

イギリスの大学図書館を貫いている設計思想は、主題別図書館方式の採用と開放式（オープン・アクセス）書庫に集約されている。次頁に掲げたロンドン大学図書館の平面図に示されているように、図書館の内部は英語、言語、ラテン・アメリカ、地理・地質、アメリカ合衆国、心理・哲学、英国政府刊行物・統計書、歴史、雑誌、特別コレクションといった空間に部屋割りが行われている。各部局には専門的訓練を積んだライブラリアンが数名配置されている。彼らは文献の受け入れ、図書の管理のかたわら、利用者からの相談に真剣に対応して、適切な助言を与える。また、ライブラリアンは専門的分野の図書の利用に役立つ有用な手引書を編集したり、新人学生に対するガイダンスを実施して、その専門性をいかんなく発揮している。

図書の展示方式はオープン・アクセスの形態が基本であって、利用者は開館時刻から閉館時刻まで開放された書庫の中に設置されている大机か小机のどこかに席を確保して一日を過ごすことができる。なお、特定の専門分野の文献を必要としない利用者のためには読書室が別の部屋に用意されている。利用した図書は開架式の書架に直接戻すのではなく、使用済み図書用の書棚に戻す仕組みになっている。ライブラリアンの朝は使用済みの、あるいは、返却カウンターから運ばれてきた図書を所定の場所に納めることから始まる。これによって、ライブラリアンは図書の利用状況や傷みの程度を把握できるだ

けではなく、あるべき場所に図書をきちんと整理することができるのである。イギリスの大学図書館では大型本から小冊子にいたるまで、実に正確に整理が行き届いているのに驚かされるが、それは上述のような内容を持ったサブジェクト・ライブラリー方式がうまく機能しているからである。この方式こそ文献を利用する立場に立って図書館を設計するというイギリスの大学図書館の伝統的スタイルである。

ところで、オープン・アクセスの形態をとれない図書や雑誌に関しては、ロンドン大学図書館では次のように対応している。利用希望者がレファレンス・フォームに必要事項を記入してカウンターに提出すると、係員が書庫に入って指定の文献を取り出し、それを渡す—雑誌室の場合には座席に届ける—といった方式を採用している。

(2) 文献複写

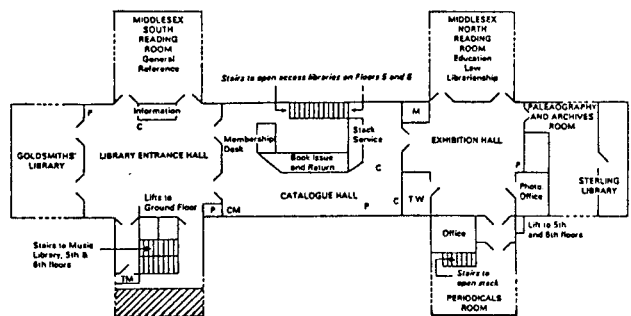
イギリスの社会はオリジナリティを重んじる国なので、大学図書館の著作権管理はかなり厳格で、文献の複写はわが国のようには自由ではない。ロンドン大学図書館では、利用者が複写機の付属装置にカードを挿入するか、コインを投入するかして、自己の責任においてコピーを行ういわば自己責任方式と、各部署のライブラリアンに複写したい部分をその都度申請して、許可証の発行を受けた後に複写室の係員にコピーをしてもらう、いわば許可方式の、二系統の文献複写の方式を採用して、著作権管理を実施している。

(3) 図書館規則

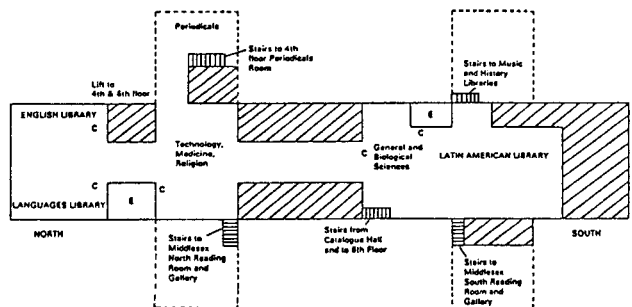
イギリスの大学図書館は入館許可証の交付の際に申請者に対して「図書館利用の手引き書」を渡す。ロンドン大学図書館発行の冊子には、

PLAN OF 4th FLOOR (not to scale)

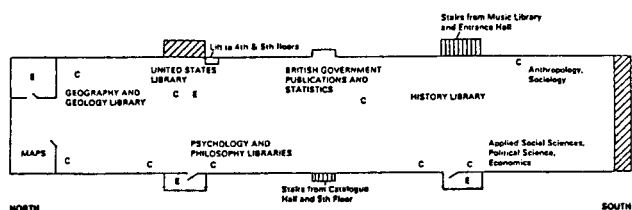
- KEY
 C = Catalogues
 CM = Change Machine
 M = Microform Reading Room
 P = Photocopying Machines
 TM = Toilets — Men
 TW = Toilets — Women
 E = Enquiry Points



PLAN OF 5th FLOOR (not to scale)



PLAN OF 6th FLOOR (not to scale)



ロンドン大学図書館平面図 (Guide to the University of London Library より引用)

図書館の小史・利用法・所蔵図書・各種サービスについての情報と44カ条の図書館規則が印刷されている。図書館利用者はこの規則に従わなければならない。たとえば、英国政府刊行物・統計書図書館の図書は禁帯出扱いを受けているので、そこではひたすらノートにボールペンを走らす学生と、統計書から黙々と数字を写しとる老教授が、席を並べている光景をよく見かける。図書館規則の前では、スタッフも学生も平等なのが、イギリスの大学図書館の輝ける伝統である。

(4) 図書館の機能を支える付帯施設

図書館利用者にとって欠くことのできない二つの設備、すなわち食堂とクローク・ルームが図書館と同じ建物の中に設置されていることもイギリスの大学図書館の特色であろう。

イギリスの大学図書館の特色について紹介してきたが、翻ってわが国の大学図書館の現状と将来を考える時、「大学図書館はいかにあるべきか」の理念に立ち戻っての、多面的にして厳しい検討の上に立った図書館づくりが必要であるように思えてならない。

(かさい やまと 文学部 助教授)

古文書データベース しよしきこうたい “諸職交替” の紹介

「諸職交替」は、岡山藩主池田家の家臣職歴情報の基本史料で、上級・中級クラスの75職種についての、江戸期全期にわたる更迭記録です。原史料の直接検索は古文書解読力を必要とするうえに、職種ごとに配列してあるので、職名が判明している場合のほかは大変不便です。そこで、これを解読しNECのデータ応用システムDATA-710を利用して、多元的かつスピーディーな検索を目指して作成したのが諸職交替のデータベースです。1件のデータは、特定の人物の一職種単位に作成されており、再任は別件として数え、計6,175件のデータが収録されています。データは、17の要素を含み、24個の項目から成り立っていますが、史料の性格から、人物名、役職名、役職期間のほかは、データ項目全てに情報が盛られているとは限りません。例えば禄高、格式、格式期間、前役、後役、兼役などの項目には、情報が無い場合もあります。諸職交替のデータベースは、主として人物名、役職名、役職期間等の漢字の綴り、ローマ字読み、和暦、西暦等から検索していきます。人物名、役職期間等が不明なときには、データの一

部分から検索できる前方一致、後方一致、中間一致、マスク文字等機能を利用して検索できます。

それでは、以下に簡単な検索例を紹介しましょう。

質問：『牧野? 六郎 (名前の一部が不明確) 生年1819-没年1869という人物の職歴を年代順に知りたい。』

まず、牧野姓を抽出します。人物名は、姓名のローマ字読み項目 [R-NAMAE]、又は姓名の漢字項目 [NAMAE] のどちらからでも検索できます (①-a, ①-b)。ここでは、名前が不明確なので、前方一致機能を使用します。前方一致は、\$の直前までをキーワードの左側と比較してゆき、比較値と合致したものを検索する機能です。姓名の漢字項目 [NAMAE] は、姓と名のひとまとまりを一つのキーワードとしているため、姓と名を切り離しての検索は、入力エラーとはなりません、検索結果はノーヒットとなります (イ)。ここでは、46件のヒットデータが得られました。

次に、この人物の生没年がわかっているの

目 録 係

目録係は図書館1階西端にあります。利用者との接触がほとんどない係で、ご存じない方が大部分だと思います。

目録係の仕事は、収書係から送られてくる津島キャンパスで受け入れられる全図書について分類し、目録カードをつくり、ラベルなどを貼って、運用係へ送ることです（運用係は、ただちに書架に配架したり、研究室に配送します）。現在、スタッフは7名です。年間約32,000冊（昭和61年度）の整理を行っています。

図書の分類法については、種々のものがあり、それぞれの図書館が、それぞれに最も適したものを採用していますが、当館では日本の図書館で最も普及している「日本十進分類法」(NDC)を使用しています。図書館での本の配架は、この分類番号順になっています。

図書の分類は、もちろん担当者の幅広い知識と能力が要求されますが、動植物の分類と異なって、個人の主観に左右されがちです。また高度に専門的であったり、学際的で分類の困難なものが少なくありません。そのため、研究室購入図書についてお願いしている「コンテンツノート」（タイトル・主題・著者についての説明）を参考にしています。また、同時に日本の図書についての国立国会図書館の分類や、洋書についての米国の議会図書館の分類も参考にしています。しかし、これらの代表的な図書館にも入っていない図書が、意外と多く入ってきますので、「コンテンツノート」は是非お願いいたします。

作成した目録カードは2階の「全学総合目録」に繰り込んでいます。目録の種類には分類、著者（訳者等も含む）、書名（シリーズ名等も含む）、一部の件名（人名、場所名等）の4種がありま

す（他に製本雑誌の誌名順の目録も作成しています）。ご覧になっておわかりでしょうが、カードはつい最近まで当館で全てタイプしていました。現在は、国立国会図書館、米国議会図書館などで作成したものをコピーしていますが、これについても分類同様で2割前後は当館でオリジナルに作成しています。教官購入図書等には同じカードを1～3枚添付して個人用ファイル等にご利用いただいています。

しかし、1冊ずつについて数枚のカードを作成し、それを1枚ずつ繰り込んでいくことに多大な労力を費やし、しかもそのために作業が全体的に遅れがちで皆様に迷惑をかけていることは今の時代にそぐいません。

欧米の大学等で研究された方は、よくご存じですが、電算化してカードを廃止した大学などでは、図書館の作成したデータベースに接続できる端末さえあれば、その場で瞬時にして多面的な検索が可能で、情報検索の手法が活用できます。

日本の大学図書館も、「学術情報センター」の誕生と共に、続々とこの方式に切り替え、その大部分が成功しています。岡山大学図書館も、今春、専用電算機が設置されるのを機に、その準備を進めています。

「学術情報センター」の「全国総合目録データベース」の構築に参加し、そこから岡山大学版をコピーして使用するわけです。

研究室のカードも含めて、カードに馴れ親しみ、ご利用いただいでいて、カードがなくては困るとお考えの方もおられると思います。また、切り替え時には、混乱も生じ、ご不便をおかけすることになりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

電 光 掲 示 板

課名変更のお知らせ

昭和63年4月から課名が次のように変更されます。

整理課 → 情報管理課

閲覧課 → 情報サービス課

これは今日の大学図書館に求められている多様な機能を遂行するのにふさわしい形態に改善していく必要からでたもので、全国の国立大学で、部制を設置している附属図書館で一斉に実施されます。

図書館ツアーへのお誘い

新入生を対象に図書館ツアーを実施します。これは、図書館に親しんでもらうための第一歩として館内を案内するものです。多数ご参加ください。西門を入れて正面が図書館です。

○日 時

昭和63年4月11日(月)～4月15日(金)

午後1時30分～5時のうち随時の30分間

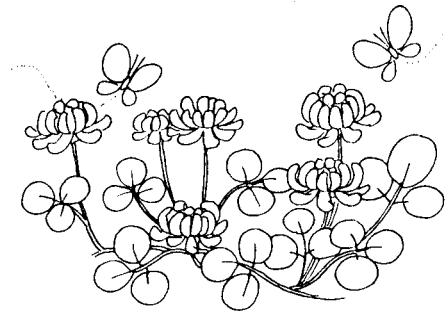
○集合場所

附属図書館1階会議室

☆参考調査係

資源生物科学研究所（旧称：農業生物研究所）分館、学術情報センターとの接続完了！

資源生物科学研究所分館（昭和63年4月から改称）は、昭和62年春に総合情報処理センターから端末機の貸与を受けました。これを機会に、総合情報処理センターと特定通信回線で結び、同年秋には総合情報処理センターと学術情報センター間の大学間ネットワークによる回線の接続を終えました。これにより学術情報センターの情報検索等のサービスが受けられることになります。



日 誌

- 62. 10. 21～23 第28回中国四国地区大学図書館研究集会（於広島厚生年金会館）
- 62. 11. 12～13 昭和62年度中国四国地区国立大学附属図書館協議会係長会（於香川大学）
- 62. 11. 25～26 第8回大学図書館研究集会（於大阪市立大学）
- 62. 12. 22 昭和62年度（第5回）附属図書館運営委員会
- 63. 1. 28～29 昭和62年度国立大学附属図書館事務部長会議（於千葉大学）

〈カット〉 農学部教授 奥 八郎

〈題字〉 経済学部教授 久留島 陽三

岡山大学附属図書館報 かい 楮 No. 6

昭和63年3月

編集・発行 岡山大学附属図書館 〒700岡山市津島中3丁目1-1 電話0862-52-1111内線286